

IV. よく質問される問題

□アウトライン

1. 宴会を楽しんだり、娯楽に興じたりすることはいいことですか、悪いことですか？
2. 汚れを受けないように避けるべき物は、ありますか？
3. 「世も世にあるものも、愛してはいけません」(Iヨハネ2:15)とあります。これを読むと、やはり娯楽はいけないのかな、世は汚れたものばかりなのかな、と思えるのですが、どうでしょうか？
4. 自己チェックのための六つの問い

-
1. 宴会を楽しんだり、娯楽に興じたりすることはいいことですか、悪いことですか？

(1) この質問の意図は、信者が宴会や娯楽をするのはいいのか悪いのか、あるいは宴会や娯楽そのものが罪なのか、ということ

(2) 教会史を振り返ると、「信者は宴会や娯楽に興じてはならない。宴会や娯楽は罪である」と教えたグループがあったことは事実。その根拠とした聖書箇所は次のとおり。ただし、これら4つの箇所が問題としているのは、「宴会や娯楽=罪」ではなく、聖書が明らかに罪であるとしていることに関わる宴会や娯楽についてであり、そのような宴会や娯楽には参加することを避けなさい、ということである。

- ① 箴言 21:17 快楽を愛する者は貧しい人となり、ぶどう酒や油を愛する者は富むことがない。
- ② ルカ 8:14 茨の中に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らはみことばを聞いたのですが、時がたつにつれ、生活における思い煩いや、富や、快楽でふさがれて、実が熟すまでになりません。
- ③ IIテモ 3:4 人を裏切り、向こう見ずで、思い上がり、神よりも快楽を愛する者となり、
- ④ テト 3:3 私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快楽の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。

(3) 聖書の他の箇所では、宴会や娯楽を楽しむように勧めている箇所がたくさんある。私たちが喜び楽しむことは、神のみこころである。そのような箇所の中から一部を挙げると、次のとおり。

- ① I列王4:20 ユダとイスラエルの人々は海辺の砂のように多くなり、食べたり飲んだりして、楽しんでいた。
- ② 詩16:11 あなたは私にいのちの道を知らせてくださいます。満ち足りた喜びがあなたの御前にあり 楽しみがあなたの右にとこしえにあります。
- ③ 詩147:14 主はあなたの地境に平和を置き 最良の小麦であなたを満たされる。
- ④ ヨハネ10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。
- ⑤ ヨハネ15:11 わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。
- ⑥ ロマ15:13 どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満たし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。
- ⑦ ピリピ4:12 私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

(4) 結論：信者が宴会や娯楽を楽しむこと自体は、禁止されていない。ただし、その娯楽が罪と関係していれば避けるべきである。具体的には、4. の自己チェックへ。

2. 汚れを受けないように避けるべき物は、ありますか？

(1) 【補足：私見】この質問の部類で、日本人の信者がよく質問するのは、「家の中に仏壇や神棚がありますが、汚れを受けないためにそれらを捨てるべきですか？」などである。

(2) 原則を言えば、私たち信者を汚すような物は何もない。物自体に、汚れを人に及ぼすような力は、ない。ただし、ある信者が何か特定の物に汚れを感じたり、それと関わることで心にとがめを感じたりするのであれば、その信者は、その特定の物を避ける必要がある。

① ロマ 14：14 *私は主イエスにあって知り、また確信しています。それ自体で汚れているものは何一つありません。ただ、何かが汚れていると考える人には、それは汚れたものなのです。*

② Iテモ 4：4 *神が造られたものはすべて良いもので、感謝して受けるとき、捨てるべきものは何一つありません。*

③ テト 1：15 *きよい人たちには、すべてのものがきよいのです。しかし、汚れた不信仰な人たちには、何一つきよいものはなく、その知性も良心も汚れています。*

【補足：「汚れた不信仰な人たち」とは、14節の「ユダヤ人の作り話や、真理に背を向けている人たちの戒め」の人たちを指す。「ユダヤ人の作り話」とは、たとえば、マタイ 12：24、28：11～15。「真理に背を向けている人たちの戒め」とはユダヤ教パリサイ派の口伝律法、たとえば、マタイ 15：1～9。】

(3) ただし、物の使い方しだいでは、その物は汚れたものになり得る。前述の娯楽と同じである。娯楽そのものは罪ではない。しかし、罪に関わる娯楽があり得る。同様に、物自体に汚れはないが、それを罪に関わって使えば、その物は悪しきものとなる。

(4) 【補足：私見】「家の中に仏壇や神棚がありますが、汚れを受けないためにそれらを捨てるべきですか？」という質問に対する答えの一例

- ① 仏壇や神棚自体は、木や金属で作られた物体です。それ自体に、信者を汚す力はありません。
- ② 仏壇や神棚は祭祀物と呼ばれ、個人の所有物というより、その家の家長に代々引き継がれることがあります。もし、あなたが先代から引き継いだのであれば、次のような選択肢が考えられます。
 - キリスト教の信者になったことを理由に、一族の別の人に引き継ぐ。
 - 他の人に引継ぐ必要がなければ、廃棄する。
 - 親の位牌などを捨てるのが忍びないというのであれば、仏壇の扉を閉じて保存しておく。ただし、保存することで自分の良心にとがめを感じたり、誰か他の兄弟姉妹をつまづかせる恐れがあったりするときは、思い切って廃棄する（参照 4. の自己チェック）
- ③ もし、あなたが家長の立場でなければ、仏壇や神棚を勝手に処分することはできません。それは、あなたの管轄ではありません。そして、家の中にそれがあつたとしても、それがあなたを汚すことはありません。

3. 「世も世にあるものも、愛してはいけません」（Iヨハネ2:15）とあります。これを讀むと、やはり娯楽はいけないのかな、世は汚れたものばかりなのかな、と思えるのですが、どうでしょうか？

(1) Iヨハ2:15 **あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もし誰かが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。**

- ① 【補足】使徒ヨハネは、ヨハネ3:16では「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」と言う。しかし、Iヨハ2:15では、「世を愛してはいけません」と言う。「世」の意味内容が違う。直接的に罪とつながる限定的な意味での「世」である。
- ② Iヨハ2:15の「世を愛してはならない」とは、娯楽について言うなら、罪と関わるような娯楽に興じてはならない、という意味である。
- ③ 「世にあるものを愛してはならない」とは、世にあるものはすべて汚れているということではない。世にある物を罪と関わるような使い方で用いてはならない、という意味である。

(2) 世と世にあるものに対して、信者が正しい関係を持ち、神のみこころにかないつつ、喜び楽しむために、心得る4つの聖書箇所

- ① Iテモ4:4 **神が造られたものはすべて良いもので、感謝して受けるとき、捨てるべきものは何也不会あります。・・・すべての物は神から与えられるものとして感謝する**
- ② マタイ6:33 **まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。・・・信者は、霊的な神の国の一員とされ、神の義を受けている者である。それに加えてこの世での喜び楽しみが与えられる。優先順位は、神の国と神の義を受けることである。そのことを自覚する**
- ③ ルカ12:15 **どんな食欲にも気をつけ、警戒しなさい。人があり余るほど持っていて、その人のいのちは財産にあるのではないからです。・・・食欲にならないように気をつける**
- ④ Iテモ6:17 **今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き、・・・富は頼りにならない、無くなることもある。信者が望みを置けるのは神のみである**

4. 自己チェックのための六つの問い：YESなら避ける

- (1) ヘブル12:1・・・このことは、私の霊的成長を妨げるような重荷になるか？
- (2) Iコリ6:12・・・このことは、私の意志を支配するような危険があるか？
- (3) ロマ14:23・・・このことは、私の心の中に疑いを起こすか？
- (4) Iコリ8:13・・・このことは、誰か兄弟をつまずかせることになるか？
- (5) コロ4:5・・・このことは、誰かを主のみもとに連れてくることの妨げになるか？
- (6) Iコリ10:31・・・このことは、神の栄光をほめたたえることの妨げになるか？

V. 借金をすることについて

1. 聖書箇所

ロマ 13 : 8 *だれに対しても、何の借りもあってはいけません。*

2. 「借り」とは

(1) 定義：返すべき負債があり、その負債が、それに関係する資産の額を超えている

(2) 【補足：具体例】

① 銀行に 100 万円の預金がある。クレジットカードで 20 万円の支払いが残っている。この場合、クレジットカードでの負債は、資産の額を超えていないので、「借り」には当たらない。

② 親から相続した土地の上に、住宅ローンを借りて家を建てた。ローンは 1,000 万円。毎月の返済は、収入で十分に支払うことができる。土地と建物をローンの抵当にいられていて、万一のときは売却すれば、完済できる。この場合の住宅ローンは、資産の額を超えていないので、「借り」には当たらない。

(3) ロマ 13 : 8 が命じるところは、自分の返済能力を超えた借金をしてはならない、ということ。

3. 聖書的原则

(1) 返済能力を超えて借りることは、奴隷になることと心得る（レビ 25 : 39~41、箴言 22 : 7、マタ 18 : 25~30）

(2) 借りてまで何かを持つとする根底には、貪欲があることが多い。貪欲は、本来不必要なはずの債務を負わせ、人を破産に導く。自分の動機をよく吟味すること（コロ 3 : 5）

① 必要であるということと、欲しいということとを、きちんと区別すること

② 不必要であるが、欲しいという場合、自分にそれを買う経済力があること

③ ただし、お金があれば買えばよいということではない。必要なものがほかにあるかもしれない。優先順位を見失わないことである。

(3) 賢く計画する

- ① バランスが大切：神を信頼することと自分で賢く計画することとの両方が必要である。私たち信者は、神が私たちの必要を満たしてくださることを信じる。同時に、自分で賢く計画する責任が私たち自身にある。
- 自分の子どもたちのために・・・Ⅱコリ 12：14 **親が子のために蓄えるべきです。**
 - 自分の家計のために・・・Ⅰテモ 5：8 **もしも親族、特に自分の家族の世話をしない人がいるなら、その人は信仰を否定しているのであって、不信者よりも劣っているのです。**
 - 自分の仕事のために・・・ヤコブ 4：13～15
- ② 予算を立てるときの4つのガイドライン
- 1年単位で立てること・・・最初から月単位で考えがちであるが、税金や保険料のように年単位での支出もある。まず1年全体の予算を立ててから、月ごとの予算を組む。
 - 小口の支出こそ注意。小さな額の買い物はついコントロールせずに支出してしまう。そのような買い物はやめて、できるかぎり債務の返済を優先すること。
 - 大口の支出については、分割後払いをしないこと。車にせよ、家具にせよ、まずお金を貯めておいてから、一括払いで購入するのが望ましい。分割後払いには利息の支払いが伴うことが通常である。そのような余分な出費を抑えることができる。
 - もし借金の返済に窮する状況に陥っているなら、クレジットカードの使用はやめて現金払いで生活し、月々の収入で暮らす。こういうケースでは、借金をあちらこちらでしていることが多いので、できれば一つにまとめ、月々に返せる額の返済計画に組み直す。